陳舜臣さんを語る会通信

NO.140 Jun. 2025 兵庫県明石市北朝霧丘2-8-34 橘雄三方「陳舜臣さんを語る会」 Tel. 078-911-1671

編集 「陳舜臣さんを語る会通信」編集委員 発行日 2025年6月15日

『万邦の賓客(ばんぽうのひんきゃく) 中国歴史紀行』

『万邦の賓客』は、第一部 **万邦の賓客**、第二部 西域・シルクロード、第三部 辺境歴史紀行、第四部 歴史 を歩くの四部からなっています。"万邦の賓客"とは、「あらゆる国からやって来た大切な客」との意味です が、陳舜臣さんは、文庫版のあとがきで、「万邦の賓客ということばは私が好きなので、 ルとし、さらに)本書の総タイトルとした次第である」とおっしゃっています。 『万邦の賓客』には単行本 (1999 集英社) と文庫本 (2001 集英社) があります。 (編集委員 橘雄三)

製作した工人の息吹が耳もと に受けとめることは、文物鑑賞 醍醐味といってよい。それを 伝わってくれば、私たちはよ らせることができる」(著者) 豊かな精神の膨らみに胸を 書を繙き、悠久の時を生 一史のうねりを、自分の

文庫 本キャッチコピ

ロードへの想いを記し、 きた人を温かくみつめ、 旅した探検家たちの足跡を辿 珠玉の中国歴史随想。 、辺境を シル

九九九年一

月

ら京都や奈良を救ったという 人でも、許せないことではな か。私はこれまで著書の 剥がしたウォーナーは、いく 月と自然の力の破壊をみる で、非難してきている。 だが、ベゼクリフやキジルの

> のものである。・・・。大英博 名画もそれを愛する人たち へ行けるであろうか。文献も る沙漠をこえて、キジルやニヤ ようとする人たちも、はるば ていた。またそれらを鑑賞し 管法は、感動的なほどすぐれ という句で結んだ。 で作った詩を私は、 秘文名画は万邦の賓なり

など、さすがのスタインも憤慨

ている。敦煌の壁画を薬品

欧の「探検家」はひどいことを

それほど大英博物館

の

だと思った。たしかに当時の西 をこえて、あらゆる国の賓客 を、大英博物館でみたとき、

はこのような美術品は国境

ウイリクの寺院址から発見

スタインが新疆のダンダーン

した。原状撮影もせずに壁画

切りとったドイツ隊の暴挙

がする。 悲観的な見方しかできない気 はたしてその後どうなったか、 彼らがもち出さなけれ ば



単

行本「あとがき」抜粋引

傍線は加筆

_			
第一 音	万邦の賓客	NHKスペシャル『故宮◆至宝が語る中華五千年』(1996、97 日本放送出版協会)全4巻、各巻の巻頭に書いた文章4編	
	ぼくや牧野の戦い	かった)で 陣さんは 歴史の「戦争」として 論じるのは ・・・ 「牧野の戦い」がいまのところ第一号といえるので	
	一曲水と淝水	【第2巻】[六朝][五胡十六国・北魏][隋・唐] タイトルの曲水とは、永和9年(353)3月3日、会稽山陰(今の浙江省紹興市郊外)の蘭亭に文人たちが集まり催した曲水の宴のこと。また、淝水とは、383年、華北の前秦と江南の東晋とが激突した淝水(現在の安徽省淮南市南郊)の戦いのこと。前者の中心人物は王羲之で後者は苻堅。苻堅は陳さん思い入れの人物で、『中国傑物伝』に、理想を持った現実主義者として、16人の一人に取り上げられている。	
	江南の時代	【第3巻】[唐·五代][北宋][南宋] 盛唐の「安史の乱」(755-763)、唐末の「黄巣の乱」(875-884)、北宋と遼との「澶淵(せんえん)の盟」、南宋と金との「紹興和約」及び「乾道和約」などを通して江南の経済力に言及。そしてまた、文化においても、重心は南に移っていったと記す。■『小説 マルコ・ポーロ』	
	画人の系譜	【第4巻】[元][明][清] 画人の系譜として、まず、元末四大画人の一人、黄公望(1269-1354)を取り上げ、黄公望の「富春山居図」は、故宮の収蔵する絵画のなかで最もすばらしいものである。ところが、台北の故宮には「富春山居図」と称する絵が二つあるのだ、と話が始まり、詳述される。あと、『中国画人伝』に登場する画家が続くが、特に、八大山人(1626-1705)の描写は筆が走る。	

曲

水と淝水」

曲

水の宴が催された蘭亭

湍

3

45

此

山隆之蘭

送出版協会)

第3巻 より

在癸丑落

次

部 いくつかの補足 画像を中心に

げたのも、 招き曲水の宴を催した。 (草稿) (蘭亭集) 入口ほか 褚遂良(ちょす (三 五 (今の浙江省紹興市郊外)の 三) 三月三日、 の真跡は存在せず、

書の最高傑作と言われる「蘭亭序」 の序文として王羲之が書いたもの その時に作られた詩37 いりょう)の臨本であ 王羲之は 前亭に

> 江 南の 時 代 南宋の陵墓

を得る楊璉真加の記述があります。 悪名の高い人物です。 ルコ・ポー 南宋諸帝の陵墓をあばいて巨利 楊璉真加 は

楊璉真加はこの大規模な墓あらしで巨利を得ようれんしんか 『チンギス・ハーンのー 族』から引用します。

納めていたのだ。 めない百姓は二万三千戸、 大珠などである。 たときにわかったことである。 金千七百両、 これはのちに官物盗用で失脚 田は二万三千畝で、 銀六千八百両、 その他玉器、

を

南宋陵墓は浙江省紹興市の東南にある

ンの一族』に、 及び『チンギス・

集英社文庫版4巻 p.307-308)

彼らは楊璉真加には刀三千畝で、税賦を納

↑『故宮』(1997 日 本放

編集委員撮影

南宋陵墓遠景

1 3g.163.com より

Α

В





『中国画人伝』

画 一人の系法 譜 大 Щ

国画人伝』 大山 の冒頭で

中

の目に抵抗の光をともしたいだけのた としているかにみえる。 勢をとっている。 描い 許さず、 大山人のえがく鳥は、 たという気がしてくる。 あくまでもなにものかには その目は鋭く、 じっと見ていると、 すべて屹然とした姿 人間 む め の かおう 理 不 そ 尽

を

大山人の別の絵では、 この絵の署名を拡大したのが左のAです。 陳さんはこの文章に、左の絵を添えていま 「哭之」というより、 Bのような署名もありま 人の顔に見えます 「八大山人 花卉雜画冊」より

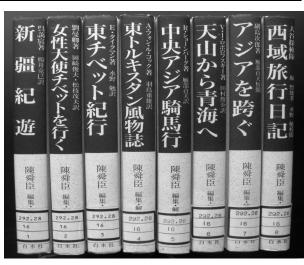
第二部「西域・シルクロード」、第三部「辺境歴史紀行」

	西域・シルクロード	『西域シルクロード全紀行』(1995-96 読売新聞社)全5巻の各巻に寄せた「巻頭のことば」5編		
	敦煌以前のこと	【第1巻】[敦煌の旅]敦煌石窟寺群が詳述される。◆「敦煌以前のこと」 冒頭、馬王堆の帛(はく 絹布)画くらいが、残っている中国絵画史のあけぼののようだ、ではじまる。続いて、金縷玉衣(きんるぎょくい)など厚葬に話が及び、あと、石窟寺や敦煌周辺勢力の宗教事情について語られる。特に第17窟の洪ベン像についての記述が興味深い。		
第	西域南道	【第2巻】[シルクロードの旅]シルクロードは敦煌から、天山南麓の諸オアシスを経由してカシュガルにいたる西域北道と、クンルン山脈北麓のオアシスを縫ってカシュガルで北道と合流する南道とがあった。南北道の間に横たわるのがタクラマカン砂漠である。◆「西域南道」では、チンギス・ハーン及びその子供たちを中心に、この地(カシュガル、ヤルカンド、ホータンなど)のモンゴル系諸民族の活動を主とし、宗教絡みで描く。		
部	西域の詩人	【第3巻】[長安の夢]はなやぐ夢の都、長安。李白、杜甫、白居易、王維らの詩人が生き生きと描く唐代の国際都市長安。そして、三蔵法師玄奘も登場する。◆「西域の詩人」まず、現地に行かずに西域を詠んだ詩人として、王翰(おうかん)及び王昌齢に言及したあと、西域の大地に立って西域の風物を見て詠んだ岑参(しんじん)に紙幅を割く。		
	理想郷と理想人	【第4巻】[シルクロード巡歴]楊貴妃、玄奘、マルコ・ポーロほか、時代を越え歴史の主役が見つめた流沙の道をたどり、唐の都長安から西域、イラン、トルコへ。王朝、民族の興亡を子細に描く。◆「理想郷と理想人」モンゴル時代、最も有名だった「西域の文人」として耶律楚材をあげ、詳述する。あと、プレスター・ジョン伝説について語られる。		
	東西をつなぐ人	【第5巻】[西域日誌]東西をつなぐ回廊への旅。絹の製法伝来の秘密、玉を産する伝説の山、ペルシャのバザールなど博学な知識でシルクロードのすべてを語る西域シリーズの最終巻。◆「東西をつなぐ人」前半は、明の永楽帝の命で大船隊を率いて前後7回南洋・インド洋方面に遠征した鄭和を、後半は、ティムール帝国の創始者ティムールを取り上げる。		
	辺境歴史紀行	陳舜臣編集·解説『中国辺境歴史の旅』(1986-87 白水社)全8巻の各巻末に陳舜臣さんが刊行当時の歴史的背景とそれぞれの書物について書いた「解説」の文章8編。 ■各巻の説明は、白水社版内容紹介より転載		
	動乱の新疆	【第1巻】「新疆紀遊」 戦乱西域の生の記録。中国と日本の間に9.18事変 (満州事変) が勃発したころ、中国西部の新疆省も戦乱の中にあった。近代史に忘れられた感のある中国辺境も、世界の流れの影響を受け、大きく動いていた。本書は、その戦乱の渦中にあった著者が語る近代中国の生きた証言である。		
	新しい女性の里帰り	【第2巻】「女性大使チベットを行く」 ラサをめざして。中華民国政府樹立後の1929年(民国18年)、1人の若い中国人女性が自ら志願し、蒋介石の命もあって、当時西康省と呼ばれていた東チベットを経て、長途ラサへ向かう視察の旅に出る。これは、新しい中国の建設を夢みる若い中国人女性の情熱あふれる旅行記である。		
A5265	人間の運命	【第3巻】「東チベット紀行」 辺境の和平交渉記。揚子江、メコン川、サルウィン川が南北に平行して流れる、東チベットのカム地方。中国とチベットの間に永く紛争の続いた地である。この深い峡谷と険しい峠を越え、1918年に再燃した紛争の和平交渉を結実させるべく、著者の1年に亘る旅が続く。また、中国西蔵間の交渉の歴史も掲載した。		
第三部	革命の風吹きすさぶ	【第4巻】ル・コック著「東トルキスタン風物誌」 東西文化交流の歴史を訪ねる。東西文化交流の接点ともいえる中国領トルキスタンは古代遺跡の豊庫である。ル・コック率いるドイツの探検隊は、この東トルキスタンから多くの貴重な美術品や古代遺物を発掘した。東トルキスタンの風物を背景にしながら、古代からえんえんと続く東西の交渉の歴史が浮かび上がる。		
	竜種の人	【第5巻】「中央アジア騎馬行」 中央アジアの遊牧民の中で。ロシアの南下政策に対抗して、英国は新疆全域の踏査を必要とした。本書は、1927~31年にかけて、その任務に当った著者の紀行であるが、苦しい踏査行の中で、著者の眼は現地住民の生活に詳細に注がれ、特に高地遊牧民の雄渾な生活、ぶりに、心から感嘆している。		
	挫折の旅	【第6巻】「天山から青海へ」 無念の大旅行。19世紀後半、英国のチベット政策に対抗し、ロシアも大がかりな踏査隊をチベット周辺に派遣した。著者が、青海省の積石山中で半身麻痺の病に倒れるまでの、中央アジアの雄渾な旅行記である。		
	歴史の流れのなかの旅	【第7巻】「アジアを跨ぐ」 1924年1月1日、長途イスタンブールを思い、北京駅頭に立った日本の青年がいた。「緊褌一番、今生最後の奮闘をやってみるだけだ」。道中、悲壮な決意をみせながら、尺八一管を手にした1年9ヶ月の一人旅である。シルクロードのロマンあふれる旅日記。		
	まとめを待つ探検	【第8巻】「西域旅行日記」 大谷探検隊の未発表記録。1902~04年の第一次大谷探検隊の日記の抜粋。ホータンからアクス、カシュガル、クチャ、キジル、クルラ、トルファン、ウルムチまでの主要部を掲載。		

『西域シルクロード全紀行』 (読売新聞社)全5巻



『中国辺境歴史の旅』(白水社)全8巻



そ

笑天の昇天」

の

記

おどろいてしまった。

新疆省主席で暗

一殺され

た楊

娘だったのである。

陳舜臣さん思い入れの人物、楊増新(よう ぞうしん 1864-1928)

社)所収「笑天の昇天」からはじめます。 増新の 話を『笑天の昇天』(一九 七二 読 売 新

舞台は中国の新疆。 主人公は李笑天、 以下、 抜粋引用します。 飛行機操縦士。 狂言回し「私」は陳舜臣 傍線は加 実在の人物 筆。

の

だけで、 どを、 で活躍した李笑天の話に、 徒に英語を教えたが マンチシズムは西域へのあこがれにつながって がそこで死んだ①新疆という土地が、 ② た のはとうぜんであっ った楊 なぜ李笑天の話に興味をもっ ŧ 意味をもっていたからだ。 私はかつて小説に書いたことがある。 新疆を戦乱にまきこんだ馬仲英のことな たま台湾に帰 私 には血 新の外孫がいた。 わけて、 がさわぐのをおぼえたのである。 そのなかに 省したとき、 新疆と 私がつよく心を惹か ③その楊増新の暗 たかというと、 いう わが若き日の 郷里の若い生 新 地名をきいた 疆省主席で 私にはとく 新疆 彼 殺

そ 。 二 道半ば』の記

します。 は帰郷し、 になる人物だったようです。終戦の翌年、 楊増新は、 ・がて郭懐福君の母親の身もとがわ 0 一の傍線②について記述します。 三年半ほど、 「学校事始 陳舜臣さんが、作家になる前 郭懐福という生徒がいました。 3 初級中学で英語の教師 から抜粋引用します。 かり、 陳さん か 私 5 は を

新疆で官吏を歴任し、 増新は雲南出身で、 辛亥革命の前 清末の進士であり、 は道員…。 粛

> 命で清 政と軍政を掌握した。 省長兼督軍となり行任となると、彼は新疆 の)長官で が亡びて中華 あ る。 民

であったと評価されている。 苦しんだ。それなのに辺境で、 疆が、二十年近く平穏だったのは楊増新のおかげ て、 は高潔でしかも有能だった。 政客だったが、人格 本人は、 中国本土は軍閥混戦に巻き込まれ、 古いタイプ 民国前後は政情不安 多民族多宗教の新 人びとは

中が、一九二八年七月にクーデターを起こして を混乱させた。…。 殺した。楊増新亡きあとの新疆は大いに乱れ、 樹仁という無能な男が省主席となり、 古色蒼然たる楊増新のやり方に不満であっ さらに 新疆 た 金暗 連

することになった。彼が転学の挨拶に学校に来た郭懐福君は短期間在学しただけで、厦門へ転学 とき、母親が同行していた。そのとき、 て郭懐福君の母親と会ったのである。 私は はじ

雲南出身の彼女は大柄の美女であった。

像は軍装の楊増新

wikipedia)

そ ல் 「ウルムチに 消えた火」

新聞社)所収です。 亭の狂女』(一九九 が 多 登 場 そ です する小説、 の (尚文社電子書籍版→) 消えた火」、 女』(一九九四 かと思い が、 0 傍線③は 小 小説ではこれ エッセイは す。楊増新が ・ます。 ウ 毎紅日蓮



の Ξ ٦ 万 邦 の賓客』収 録 随 筆よ

そ

乱 この新疆」 \mathcal{O} から抜 第三部 粋引用い 辺境 歴 史紀 たします。 行 第 巻

解

説

た。 たが、 拒んでいたのである。 が暗殺され、近代化をはばむ障害の一つは除か その新疆では、 その代償であるかのように政情が不安になっ 老荘思想に拠って、 清末から古いタイプの 一九二八年に省主席楊増 かたくなに近 政 代化 れ新 を 楊

が、この金主席は前任者にくらべて、 が、この金主席は前任者にくらべて、統治能力に十一月であった。省主席金樹仁の招聘によるのだ するために、天津をはなれたのは、一九三二年の本書『新疆紀遊』の著者呉藹宸が、新疆へ赴任 おいてかなり劣る人物だったのであ

新 が、 の 、 こなった。 哲人政治といってよいほど、次元の高い統治を の悪政にあった。 新疆が乱れた最大の原因は、 新疆は長く平和を謳歌したのである。 中国全土が軍閥混戦で乱れていたのに、 いささか古めかしいのが欠点であった 暗殺された前任者の楊増新 あきらかに金 ば 増 お

吹きすさぶ」、第五巻解説 陳舜臣さんは、 各巻解説では他に、 新に言及しています。 『万邦の賓客』 第四巻解説 「竜種の 革命 でも 辺 境 楊 0 歴 増 風

ことば」や「解説」ではなく、 本文で楊増新を取り上げているもの 敦煌の旅』 今回取り上げた著作で、 『西域シルクロー があります。 (一九九五 売新聞社 全紀行1 頭 0

臣さん

の 一

九七五の

訪問以

降、

兀 陳

年

より転載。

左

 \mathcal{O}

画

像

中

央の

洪ベン座像は

第

三部

敦煌以

前のこと」

補足

) 再訪までの間に他所で見つかり、

所定の場

所に戻されたのです。

従

0

家四人の旅です

『敦煌の旅』(一九七六

平

当

凡社)にはこの座像の

記

述

は

あ

ŋ

ŧ

の事情については

一一西

|域

i)

九ル

「秘宝顚末」

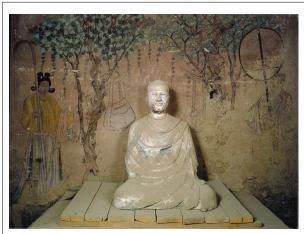
に

記

敦煌の旅』

<u></u> 九 付付

第二部、第三部 いくつかの補足



baike.so.com/gallery/より

されています。 第 16 この 口 売新聞社) ド全紀行1 間

舜臣さんを語る会通 3号でも言及しています 節にも記述があります。 西域をゆるがしたもの」 窟、 17窟につい 信 ては Ó 第34号及び 0) また、 『紙の 開山 そちら 堂 道 『陳

前列むかって左より著者、娘(由果)、息子(立人) 後列、老劉(劉吉順)、著者の妻(錦墩)、以下略

えたのである。 あこ という地名をきい いたからだ。)新疆と が 傍線①です。 ħ いう土 に つなが わ が若き日の 地 って ただけ が、 私に た。 で は 口 : とくべ マンチシズ 私 は血 そん |がさわぐの つ

1931.9.18

疆 の て

西 域への 憧れ

文中、 ① 前 1 ジ、 『笑天の昇天』 「笑天の , 昇天」 の

なわけ ムは西 意味をも 7)3 て 6 域 を \mathcal{O} 新 引 西 暦 事 項 |9||.|0.|0||辛亥革命勃発 南京で中華民国成立 孫文臨時大総統 1912.1 実権は袁世凱に。北京にいて、臨時大総統→ 大総統→皇帝(3ヵ月ほどで失脚、憤死1916.6) 袁世凱後の北京政府は12年にわたる軍閥混戦時代に 1919 5月4日 五・四運動 全国に拡大 6月 ヴェルサイユ条約調印拒否 10月 孫文、上海で中国国民党を結成 1921 中国共産党創立 1924.1 第一次国共合作(-27.7) 1924 広州で、黄埔軍官学校開校。校長、蒋介石 1926 蒋介石を総司令として北伐開始 1927.4 上海クーデター(蒋介石、反共クーデターを断行) 1927.8.1 南昌蜂起(共産党、独自の軍隊を持つ) 1928.6 蒋介石率いる国民革命軍北京入城

柳条湖事件 翌年、満州国建国

の息吹きに接してほしかっ 左の文章及び画像は 陳舜臣さんにとって、祖国 写真下の説明も原文の が、 『敦煌の旅』 :. たのですが 息子や娘に とは 7 九 は、 七六 部 (p. 323) 自分の 省略。 平凡

玉

の

中 国 当時の政治状況

徒の母親が

「楊増新の娘だった・・・」

と驚く場面が

り生

『道半ば』

楊増新のことは、

既に承知のことだったのです。

ますが、前ページにあげましたが、

三年半ほど、

台北

|県立新荘初級中学で英語

ということで、

終戦の翌

陳

舜

臣

さん

の教師の教師

を

さんが書いた 第三 を簡単にまとめました。 中 「解説 国 辺 境歴史の /編に 旅 記述され 0) 各巻末に、 た中 玉 0 政 陳 舜

治

臣

ります。 全紀行1 これもまた、 敦 煌の 旅 ジで取り上げた 酒泉にて」 『西域シル クロ

あ

に次の記述 旅行 が

社

記 西 域方面の

熱心な読者でした。 学生時代から私は旅行 とくに

という決意の表明なのだ。 億兆一心、戦則必勝…

随筆タイトル

歴史の数と理想

関帝廟のこと

詩史のこと

共有してきた文化

歴史のなかの禅譲

歴史博物館の思い出

東西を結んだ人々

故宮のたのしさ

特異な歴史の上に築く

第

四

部

歴

史

を

歩

第四部「歴史を歩く」

及び第三部に収録の随筆・エッセイはいずれも、 一つのタイトルでのシリーズ本に掲載 された陳舜臣さんの「巻頭のことば」であったり、巻末の「解説」であった。 この第四部は、雑多 しかし、 「歴史を歩く」 な紙誌に掲載されたもので、 という緩いタイトルのもとに集められた随筆・エッセイである。

> 祖」を祭るのは異様だが、報告者 の祭文が、つぎつぎに読まれた。報 の三カ月前だが、異例なことに三種 告の形式をとっている。 日などに、子孫が始祖に報告する祭 定したときに、あるいは皇帝の誕生 を主宰し、今、すでに四年なり。 節に、公祭がおこなわれている。現 山といろところに、黄帝の墓と称す 伝説上の聖王で、実在したかどろか のが、中国人の口癖である。黄帝は 告者は国民党、国民政府、共産党の 仔する最古の祭文は、明の洪武四年 (もつ)て天下を有(たも)ち庶民 黄帝は漢民族だけの始祖ではな と、天下平定、新王朝設立のこと 満州族の清朝皇帝も、内乱を平 九三七年の清明は、盧溝橋事件 ・遂(つい)に乱暴を平らげ以 がきこえてくる。 制、五洲共欽、祖国一統: 二年から中断された。そして一九八 まざまなケースを考えて、対応策を いだ、ただぼんやりとお題目を唱え な意味をもっていたか、正確にはわ 〇年から再開されている。 では一九五五年から始まり、一九六 ような自由はないだろう」という声 講じていたであろろ。「これまでの からない。だが、それから十年のあ して参加した。その年の祭文には、 こいただけとは思えない。当然、さ

だ。民選二十名のうち、「洋人」十 る。太平洋戦争で瀋陽に抑留されて 指名であり、残る二十名が民選なの 三十名の議員のうち、十名は政府の に改めた。これが「優遇」である。 いた香港総督ヤングは、任地に復帰 議会三十名の半数は華人とすること 名は全香港を一つの選挙区として、 すると「華人優遇策」をとった。市 香港の人口の九八%は華人であ 一区に一人をえらぶ。しか

掲載紙誌

『中国の群雄』

(1997 講談社) 第4巻 「英雄台頭(諸葛孔明 劉備) 『神戸関帝廟パンフレット』

(1997)

『漢詩で詠む中国歴史物語』

(1996 世界文化社)第5巻

_ 『一冊の本』

第576号

(1993)

(1996 NHK)

『朝日新聞』 (1997年10月1日夕刊)

> なんといっても関羽である。さらに関羽には、「誠実」という、まことに人間的な 恨みをのんで死んでいる。たとえば屈原などはその代表的な人物であろう。

し、この世に怨念をもった悲劇的な武将として

黄帝陵の公祭は、中華人民共和国

玉

両

制」の行方

に十時に改められた)以後の外出が が敷かれていた。午後十一時(すぐ 五十年間、華人に対して「宵禁令」 止されていた。またイギリスの統治 香港もそろであった。洋人居住区 できないのである。 帯は長いあいだ華人の立ち入りが禁 植民地統治の主調は差別である。

このときの「一国両制」が、どん

という文字がならんでいた。

は太平天国の残党や反清革命家にと の亡命者を受け入れた。清朝時代に する声もある。たしかに香港は多く って避難地であった。抗日戦争中は 避難地としての香港の貢献を礼贅 名である。しかし、そこでイギリス なってからは一九二二年の沙田事 ってみなければならない。沙田は国 件、一九二五年の沙基事件をふり返 ある。古くはアヘン戦争、今世紀に イギリスの勝手で大きく動く自由で

とくに返還直前に、選挙はその方法 資格がないのである。戦後五十年、 であった。

九八七年の公祭に私は陪祭人と

は許さなかった。 は、香港から五年間追放されたので 本国の利害と一致するという条件が わず抗日派の人たちがここに拠 港に行ころとしたが、イギリス本国 るとき、孫文は香港総督の要請で香 ある。あと数カ月で追放期限が切れ 国共合作時代だったので、左右を問 必要だった。清朝に反逆した孫文 (よ)った。だが、それはイギリス

香港返還式典でイギリスは、アヘ

失われるかもしれない自由とは、 界の特効薬になるかもしれないとい る。ひょっとして、それが病める世 か、具体的に世界の人たちに示す義らおこなわれるのがどんなものなの は、一切謝罪しなかった。だが、儀 務がある。多くの人がそれを見てい い。「一国両制」は中国史上に前例 市を点検し、その歴史をふり返る新 ン戦争以来の「流血」や「差別」に 式は終わった。香港という特異な都 (遼の北院南院制)があり、これか しい作業をはじめなければならな

が改善されたが、基本は右のとおり 香港に十年以上居住しなければ

陳 舜臣 (作家)



のを三名に増やしたが、定員も八名 いてすべて洋人だったが、初めて クレメンティが着任した。新総督は は海員ストである。香港総督は更迭 の機関銃に倒された五十二名の犠牲 も、これまでただでもらったのでは に増やした。ささやかな「優遇」 これまで三人の非官議員が行政府に され、第十七代総督としてセシル・ 議員定員六名のうち華人二名だった 人の華人を任命した。立法府の非官 者は、香港の労働者であった。原因

(1996 朝日新聞社) 『クローズアップ中国五千年』 (1996 世界文化社)第1巻 『日中文化交流』 (1996 日中文化交流協会) 『札幌行政シンポジウム』資料 ビデオ『故宮』

巻頭エッセイ

関帝廟のこと

の世においては「皇帝」でもなんでもなかった。それなのに中国の人たちは

五歳で洛陽で病死したのは、おなじ日であった。『三国志演義』では、呂蒙も 月であった。関羽と戦った呉の総帥呂蒙は、その直後に公安という所で病死し くいる。呉の副将孫皎も関羽の死から|カ月たたぬうちに死んだ。関羽の首級 関羽が武運拙く漳水のほとりで敗死したのは、建安二十四年(二一九)の十二 こんなことから、関帝廟は鎮魂のための「社」であるとする説が有力だが

\は怨霊を鎮めるのは、なぜ関羽かという問題が残る。史上、おびただしい人が

面があった。ついには敵となった曹操にも、恩義をうけたことがあり、立ち去る に崇拝される一因だという人がいるのだ。契約すれば、どんなことがあってもそ れを守る。関羽の義理堅さは、じつは商人だけに必須のものではない。学問であ こきに、義理堅く恩返しをしている。この信義に厚いことが、関帝さまが商売人 役人であれ、技術者であれ、信義は厳に守るべきなのだ。 ただ関羽の故郷 県は、塩の産地で、全国から塩商が集まる。そんなことで商人と縁が深かっ 心義大帝に追封された。関帝廟という名はそれ以後である。 関公と呼ばれたが、宋代に武安王に加封され、そのころから彼を祀 関王廟と呼ばれるようになった。明の万暦は二十二年(1五九四)

神戸関帝廟パンフレット 巻頭エッセイ 陳舜臣



神戸関帝廟パンフレット

表 紙